

平成28年度 第51回 全国高等専門学校体育大会陸上競技
第51回 日本高等専門学校陸上競技対校選手権大会 実施要項 (案)

20151210ver.

(アンダーライン箇所が変更点, 種目数以外は基本的にH26年度49回大会に戻している)

1. 主催 一般社団法人全国高等専門学校連合会、公益財団法人日本陸上競技連盟
2. 主管 全国高等専門学校体育大会陸上競技専門部、一般財団法人愛知陸上競技協会、
豊田工業高等専門学校
3. 後援 文部科学省、公益財団法人日本体育協会、
愛知県、愛知県教育委員会、公益財団法人愛知県体育協会、
名古屋市、名古屋市教育委員会、公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会、中日新聞社
4. 期 日 平成28年8月24日(水)、8月25日(木)、予備日8月26日(金)
5. 競技会場 パロマ瑞穂スタジアム 〒467-0062 名古屋市瑞穂区山下通5丁目1番地 TEL 052-836-8200
6. 競技種目 男子：18種目 100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mH、400mH、3000mSC、4×100mR、
4×400mR、走高跳、走幅跳、三段跳、棒高跳、砲丸投(6.0kg)、円盤投(1.75kg)、やり投
女子：11種目 100m、200m、800m、3000m、100mH、4×100mR、走幅跳、走高跳、砲丸投(4.0kg)、
円盤投(1.0kg)、やり投
7. 競技規則 2016年日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせによる。
8. 競技方法 (1)男女別学校対校とする(男女により得点対象種目・人数が違うので注意すること)。
(2)得点は1位8点、2位7点、3位6点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点とする。同順位が複数
(n) 生じた場合は順位点の合計を(n) で除した得点とする。
(3)最多得点校を優勝とする。同点の場合の順位決定は上位入賞種目の多い学校を上位とする。
9. 参加資格 出場競技者は、平成28年度日本陸上競技連盟登録者であり、かつ、各地区から選出された者に限る。
10. 出場制限 (1)監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、競技者は下記のとおりとする。なお、リレー種目は1チ
ーム6名以内とし出場種目数から除く。リレーの交代は規則どおりすべての種目の出場者が対象となる。
(2)男子：下記(4)の種目を除き、各地区1種目3名(北海道地区は2名)、リレーは2チームと全国上位7
チーム、一人2種目以内とする。なお、開催校(又は開催地区)出場枠は各種目1名(1チーム)とする。
(3)女子：下記(4)の種目を除き、各地区1種目2名以内とする。一人の出場制限は(4)の種目を含め3種
目以内とする。リレーは混成チームを認める場合がある。混成チームは対校得点対象としない。
(4)参加標準記録設定種目、対校得点対象種目・人数、並びに出場者の選出方法は以下のとおりとする。
男子 400mH：59秒99、3000mSC：10分30秒、棒高跳：3m50。この3種目は対校得点種目としない。
女子 200m：29秒00、3000m：12分30秒、100mH：22秒00、4×100mR：55秒99、走高跳：1m35、
円盤投：23m00、やり投：25m00、これらの6種目も対校得点とする。ただし得点対象競技者・
種目(全体で一人2種目、1種目2名まで)を申し込み時に明記すること。その後の変更は認めない。
・男子400mHと棒高跳は有効期間内の公認記録上位24名以内、3000mSCは同32名以内とする。
・女子200m、3000m、100mH、走高跳、円盤投及びやり投は有効期間内の公認記録上位16名以内とす
る。但し3000mで16名に満たない場合は駅伝の区間記録を含むロード種目を参考にする。
(5)公認記録の有効期間について、男子リレー種目はその年度の4月1日以降最終の地区大会終了日ま
でとし、これ以外の種目については前年の1月1日からその年度最終の地区大会終了日までとする。H28
年度は、リレー種目はH28年4月1日からH28年7月24日まで、これ以外の種目は、H27年1月1日からH28
年7月24日までとする。
11. 表彰 (1)男女総合優勝校には、賞状及び文部科学大臣杯を授与し、2位～6位入賞校には賞状を授与する。
(2)各種目の1～3位入賞者には賞状とメダルを、4～8位入賞者には賞状を授与する。
(3)表彰式は、その種目終了後直ちに行う。
12. 参加料及び納入方法 選手1人当り1,800円とする。参加料は参加申込と同時に、次の銀行口座へ納入すること。なお、既納
の参加料は返還しない。
振込口座 金融機関名：三菱東京UFJ銀行 豊田支店
預金種別：普通預金
口座番号：〇〇〇〇〇〇
口座名：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
豊田高専学生課長 〇〇 〇〇
(フリガナ) 〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇
13. 参加申込 (1)申込期限：平成28年7月29日(金) 必着とする。

(2) 申込先：〒471-8525 愛知県豊田市栄生町2-1 豊田工業高等専門学校学生課内
第51回全国高等専門学校体育大会陸上競技事務局

TEL 0565-36-5913 FAX 0565-36-5970 アドレス：gakusei@toyota-ct.ac.jp

(3) 申込方法：エントリーシートを作成し、7月29日（金）までにファイル名に高専又はキャンパス名を付けて大会事務局宛に電子メールで添付送信すること。

※作成例：H28 全国高専エントリー（豊田高専）

選手の出場証明書については、校長印のあるものを7月29日（金）までに上記大会事務局宛に郵送すること。

(4) その他：地区大会開催校は、地区大会決勝記録一覧表を7月29日（金）までに大会事務局宛に電子メールで送信すること。

(5) 平成28年度日本陸上競技連盟登録用紙のコピーを同封すること。出場者全員が登録済みであることを確認できるものであること。

14. 監督会議

(1) 日時：平成28年8月23日（火）15時00分 開始

(2) 場所：名古屋市瑞穂運動場陸上競技場会議室 ※1校2名以下で必ず教職員を含んで下さい。

15. 競技組合せ 各種目の組合せは、日本陸上競技連盟の競技規則により、第51回全国高等専門学校体育大会陸上競技開催校が主管陸上競技協会立ち会いのもと行う。その結果は直ちに各校へ通知する。

16. 選手の変更 不慮の事故や負傷のために出場不可能になった場合でも、選手の変更は認めない。

17. 開・閉会式 開会式：平成28年8月24日（水）9時30分予定

閉会式：競技終了後、競技会場において行う。

18. 宿舎 別途通知し斡旋する。

19. その他

(1) 棒高跳用ポール送付について<11月27日現在、陸連に確認中である>

日本陸上競技連盟ホームページより「配送依頼書」をダウンロードし、必要事項を記入しFAXにて「日本陸上競技連盟 配送専用マネジメントセンター」まで送付した場合、西濃運輸で往復便として取り扱う事が可能。費用については、日本陸上競技連盟ホームページを参照すること。

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1275/>

《送付先》 〒467-0062 名古屋市瑞穂区山下通5丁目1番地 パロマ瑞穂スタジアム気付
全国高専出場（あなたの名前を明記）宛 TEL 052-836-8200

(2) 台風等の警報が発令された場合は、「全国高専体育大会における気象警報発令時の対応（H19.2.8）」および下記専門部申し合わせにより実施する。最大延長は、8月26日（金）12時までとする。

(3) 競技申し合わせ事項、エントリーファイル等については別途連絡する。

(4) ナンバーカードは、大会本部で用意する。

(5) 競技中の負傷については、大会本部で応急処置するが、その後の処置は各校及び各自で行うこと。

(6) 健康保険証は、各自で準備しておくこと。

(7) 独立行政法人日本スポーツ振興センター所定の用紙を各校で持参すること。

(8) 参加者の健康管理については、派遣校が全責任を負うこと。

(9) 競技結果について、個人名や写真等をホームページ、高専陸上競技記録集、報道等に公表して欲しくない者は、学校を通して上記大会事務局（gakusei@toyota-ct.ac.jp）に申し出ること。事前に申し出のない場合は、公表する。

(10) 「独立行政法人等の保有する個人情報保護に関する法律」に基づき、大会参加申込書等により取得した個人情報は、大会運営、結果公表等の目的以外には使用しない。

【陸上競技専門部 全国大会開催申し合わせ事項】（H21年作成、H25、H27一部修正）

1. 警報発令時の対応は「臨時専門部会議」にて決定する。短縮タイムテーブルでの開催など。
2. 競技日程について、競技開始時刻、招集時間は開催校が決定するが、競技順は変更しない。
3. 開催校枠の出場選手は、地区大会に出場した選手に限る。
4. 各種目の番組編成は、日本陸連競技規則により主管陸協と開催校の責任で行う。各校にはその結果を通知し、誤字などの訂正を受け付ける。編成上の問題点については、専門部委員長あるいは専門部が判断し決定する。なお、日本陸連規則の「最近の記録」はシーズンベスト記録とする。資格（参加）記録はこのシーズンベストを記入する。シーズンベスト記録とは、その年の1月1日からエントリー締切日までとする。なお、公認記録が無い場合は、参考記録（例：参 11.08）を必ず記入すること。
5. 予選の組分けについては同一校の選手を同一組にしない。また、同一組に同一地区が入ることは考慮しない。
6. 専門部会議では次年度大会についての審議を行う。

以上